令和4年(2022年)

2022年度

あたりまえの風景に あたりまえの生き物に あたらしいときめきがある!



に入れて、砂に潜る行動や水管を観察二枚貝は動物っぽくないですが、水槽 すると、生きていると実感できます。

アサリ

自然博物館収蔵写真

- P 1 🌞 いきもの写真館 アサリ
- P 2 ☆ おすすめ自然観察スポット 長田谷津と江戸川放水路 - 場所と水系-
- ₽4 ※センサーカメラとっておきをご紹介 ノウサギ
- P 5 🌞 いちかわの植物 30年 ノウルシ ジロボウエンゴサク

- P6 くすのきのあるバス通りから 今年の3月は…
- Р6 展示室 飼育生物の話題 ヤゴの羽化
- ※ わたしの観察ノート Ρ7 1~2月の記録
- Р8 🐡 ご案内

博物館だよりはカラー版をホームページでご覧いただけます。

おすすめ自然観察スポット

長田谷津と江戸川放水路 - 場所と水系 -

長田谷津(大町公園自然観察園)と江戸川放水路は、都市化が進んだ市川市域にあって奇跡的に豊かな生態系を残している場所です。まったく異なる自然ですが、両者を比較すると、それぞれの特徴が浮かび上がってきます。なぜ残ることができたのかも、見えてきます。

場所

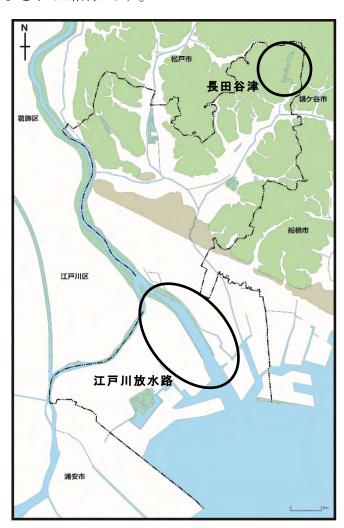
長田谷津は、市川市の北東部、松戸市、鎌ケ谷市との市境付近にあります。動植物園がある大町公園内にあり、自然観察園と位置付けられています。「長田谷津」というのは、字名にちなんだ元の呼び名です。

駅で言うと北総線の大町駅が最寄りです。大町駅ができたことで、長田谷津は「駅から5分で野生のホタルが見られる場所」になりました。これは首都圏では奇跡的なことかもしれません。それが実現した理由は、一帯が「いちかわ梨」の生産地だからです。長田谷津を包むように梨畑が広がり、土の地面にしみ込んだ雨水が湧水となってホタル(ヘイケボタル)の生息環境を生み出しています。仮に農業が撤退すれば、湧水は枯渇しホタルは滅ぶでしょう。

江戸川放水路は、江戸川の河口部3kmほどの場所のことです。地図ではここも「江戸川」と表記されますが、実際は江戸川本流とは水門で切り離されていて、川の水は入らず、東京湾側からだけ海水が出入りします。東京湾の「入り江」です。

江戸川放水路は、東西線妙典駅の徒歩圏 内にあります。長田谷津と違い周辺は完全 な市街地ですが、まるで堤防に守られてい るかのように干潟が残っています。この干 潟で、トビハゼやカニなどの東京湾奥で姿 を消しつつある生き物が暮らしています。

堤防が守るのは市街地ですが、見かけ上は堤防が、押し寄せる都市化から干潟を守っているように見えます。治水を進める中でも、可能な限り自然環境に対する配慮がなされた結果です。



長田谷津と江戸川放水路の位置

緑色は台地、ベージュは砂州、青は川と海、 白色は低地

水 系

長田谷津は、谷の最奥部にあたる場所です。湧水がいくつもの場所から滲み出し、流れ出した水が小さな流れを作り、やがて川になります。源流部ということです。水は大柏川へ注ぎ、下流で真間川と名称を変えて東京湾に注ぎます。真間川水系という小さな水系は、このようにおおむね市川市域で完結します。源流は鎌ケ谷市とするのが一般的ですが、長田谷津もひとつの源流です。

江戸川放水路は江戸川とは縁が切れています。純粋に東京湾の入り江と考えるべき場所です。流入河川はありません。その意味では長田谷津とのつながりはないのですが、江戸川放水路に残された干潟は、かつては東京湾奥に広く存在するものでした。真間川河口にも当然、存在していました。その意味では、長田谷津に端を発した水系の河口部の環境が江戸川放水路に残されていると言えます。



長田谷津

谷底は湿地、両側は斜面林になっている。 湧水を引き込んだ田んぼがある。



長田谷津から江戸川放水路へ

矢印は水が流れる方向。台地は標高で2段 にわけた。



江戸川放水路

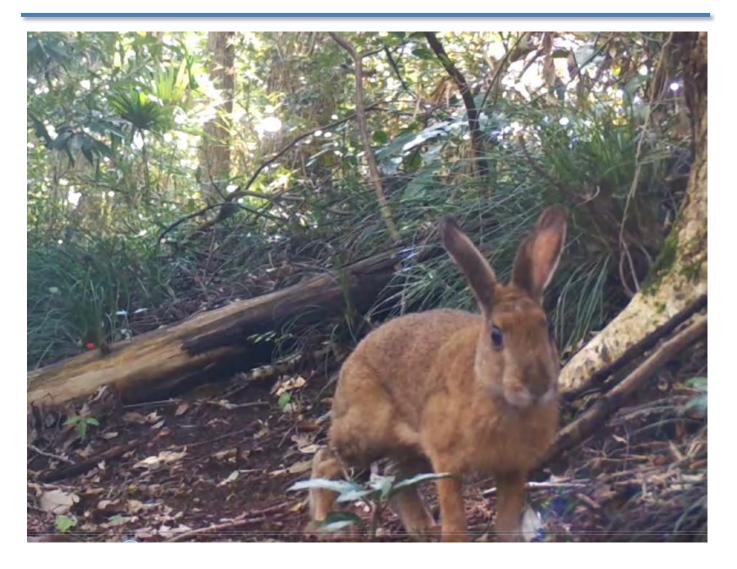
引き潮の時は干潟が現れる。柔らかい泥の場所とヨシ原のセットが代表的な景観。



センサーカメラ

とっておきをご紹介

自然博物館では、長田谷津(大町公園自然観察園)の斜面林内にセンサーカメラ(自動撮影装置)を2か所、設置しています。1か所は人工的に作った水場、もう1か所は「けもの道」です。記録は動画ですが、ここでは静止画像を切り取って紹介していきます。



ノウサギ

センサーカメラを使うようになって、哺乳類に関する情報量は桁違いに多くなりました。「たぶん、 もういない」と思っていたノウサギが確認され、数か月に1回程度の頻度で撮影されたことで、か なり安心することができました。子ウサギが写ることを期待していますが、いまのところ実現して いません。また、直近1年間も写っていません。安心が、新たな不安を生み出してしまいました。

いちかわの植物 30年

自然博物館の 30 年あまりの活動で得られた写真を用いて 市川市域の植物を紹介します。

ノウルシ

ノウルシは、黄緑色が美しい野草です。花は小さく目立ちませんが、花のまわりの葉っぱが黄緑色になります。ポインセチアの赤が花びらではなく、小さな花のまわりの葉の色であるのと同じです。実際、ポインセチアと近いなかまです。

ほかの植物よりもやや早く咲き、土手で群生する様子は、冬枯れの風景に春の到来を告げるようです。群生地は、坂川が江戸川に合流する、古い河道の一帯です。坂川は、松戸市から江戸川に沿って流れてくる川で、合流部には湿った草地の環境が残されています。 ノウルシの群落は、移動しながらしぶとく生き残ってきました。



ノウルシ(1987 年 4 月 9 日) 国府台 坂川旧河口 ちょうど花盛りだった

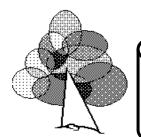
ジロボウエンゴサク

ノウルシが生える江戸川と坂川の合流部は、湿った草原が広がる場所で、以前は 原野の様相を呈していました。かつてあったヒキノカサ、エキサイゼリは消えてし まいましたが、いまでもフジバカマやノカラマツ、タコノアシ、カンエンガヤツリ

などの絶滅危惧種が生えていたり、種子の姿で眠っています。ジロボウエンゴサクは合流部の土手に生えていました。30年前は他の場所では見たことがなく大切に感じていましたが、数が少なくやがて消えました。ただ、その後、動物園のザリガニ釣り場で増え、いまではまとまった群落になりました。



ジロボウエンゴサク(1987年4月9日) 国府台 坂川旧河口 ムラサキケマンに似た花



今年の3月は……

3月は、暖かくて冬物をしまい、春になったと思っていたら、10度以上も気温が下がったりしました。8日は寒く、14日は半袖で過ごせました。夜中に「クーン」と鳴き声を娘が聞きつけ、昨年同様タヌキが現れ、今年は動画が撮れました。カンヒザクラやコブシが咲き始めました。16日は東北地方で大きな地震がありました。17日北方でウグイスが鳴いたそうです。19日夜、雷雨でした。翌朝、一昨年まで池があった辺りでカエルが2匹死んでいました。今では土が見えない住宅が数件建っています。ソメイヨシノが咲き

始めましたが、22日は雪が降り、翌朝はマイナス1度で薄氷が張りました。26日は雨。庭のオオシマザクラ?が咲き始めました。真間川、大柏川のソメイヨシノは満開。31日朝5時半頃から、シジュウカラとウグイスの鳴き声が聞こえ、ウグイスは近くにいるようです。かつて住んでいた北方は、中山の台地の斜面林が近くにあり、鳥や昆虫の種類が多かったです。今住んでいる人幡の住宅地でも、住み着いているものや、季節で訪れるものがいるのだな…と思いました。

(M. M.)

展示室 飼育生物の話題

ヤゴの羽化

展示室では、いろいろなヤゴを飼育しています。複数年生きて冬でも大きなヤゴが見られるオニヤンマを中心に、入手できたヤゴを随時飼育しています。多くの場合、展示室で羽化します。羽化した日は夕方まで展示し、その後、外に逃がしてやります。抜け殻は、羽化後もしばらく展示します。小さな子どもたちには、水中の生きたヤゴよりも、棒にくっついた抜け殻の方がインパクトがあるようです。いかつい顔で足が何本もある抜け殻は、悪役キャラです。真剣に怖がる子もいます。

いま展示室に来てくださるパパ、ママは、小学生の時にプールのヤゴ捕りをした世代です。昔、プールで捕ったよね、とよく話しています。原発事故以降、子どもたちがヤゴ捕りでプールに入ることはなくなりました。それでも、学校に行って子どもたちと自然観察をするときは、プールに来るギンヤンマやコノシメトンボをよく観察しています。





◆長田谷津より -

・カラスが騒いでいると思ったら、斜面 林の林冠をチョウゲンボウが飛んでい きました(1/12)。狭い長田谷津にはま ず来ないのですが、斜面林上部の木は、 広々とした梨畑とつながっているので 休憩していたのかもしれません。

金子謙一(自然博物館)

- ・手の届きそうな距離でアオジがじっと していました(1/28)。 園路の上から人 は降りてこないと、わかっているので しょうか。
- ・昨日から降り続いた雨でニホンアカガ エルの産卵が行われたようで、谷全体 で78卵塊を確認しました(2/20)。もと もと産んであったものも含めての数で す。生みたての卵がたくさんあったの で、2月19日から20日にかけて大規模 な産卵が行われた可能性が高そうです。

◆大町より _____

・住宅地の生垣の中の、まわりより張り 出した枝でジョウビタキのオスが鳴い ていました(1/19)。縄張りを主張して いるようでした。

以上 稲村優一(自然博物館)

・すっかり人影がなくなった動物園のザ リガニ釣り場では、アトリが餌を食べ ていました(1/23)。数羽の群れがあず まやのまわりに降りて、しきりにタネ を拾っていました。

金子謙一

◆真間山南側斜面林より ___

・斜面林のやぶからウグイスの鳴き声が 聞こえました(2/16)。寒い冬でしたが 例年より早い初鳴き確認でした。斜面 の災害防止工事でたくさんの木が伐採 され重機も入り心配していましたが、 今年もきくことができ一安心しました。 M.T.さん

◆北方町より _____

・遊水池にセグロセキレイ 2 羽がいました (1/13)。 カモ類はじめ水鳥は見られませんでした

◆中山より ——

・法華経寺境内のケヤキの大径木に、シジュウカラとメジロの混群、コゲラ1 羽とエナガ3+羽も混じっていました (1/6)。龍王池には、カルガモ7羽、枯れたハスにカワセミが雄1羽止まっていました。聖教殿の参道に、キセキレイが1羽、下りていました。

◆真間川浅間橋より _____

・護岸にダイサギ4羽、コサギ2羽、ゴイサギ成鳥1羽幼鳥2羽がならんで止まっていました(1/13)。ゴイサギは最近見る機会が減ったので、じっくり見るのは久しぶりでした。護岸の枯れたセイタカアワダチソウにカワセミの雄が1羽止まりました。

◆原木の真間川より _____

・セグロセキレイが1 羽、冬とはいえ、 こんな海岸近くにも降りてくるんだと 思いました(1/10)。

以上 田中利彦さん(船橋市在住)

年末からの厳しい寒さが続きました。 1月6日と2月10日にはしっかりとした積 雪がありました。2月の半ばになると、 雪の予報でも雨になりました。

自然博物館のwebサイト(ホームページ)を 調べ学習や事前学習にご活用ください

自然博物館のwebサイト(ホームページ)では、つぎのような素材(コンテンツ)を ご用意しています。

○ オリジナル動画

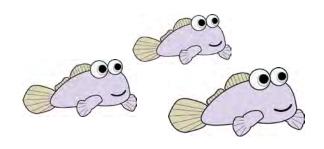
- ・グリーンスクールで訪れる大町公園の自然観察園(長田谷津)について、毎月の風景 や動植物を動画で紹介しています。
- ・同じく長田谷津について、タヌキやノウサギ、オオタカなど、一般の観察では見られ ない動物の生態を、センサーカメラで記録した動画で紹介しています。
- ・展示や、学校への出張授業で用いた教育普及用動画が見られ、順次増やしていきます。

〇 自然観察週報

自然博物館の学芸員の観察記録です。1998年からのデータを1年ごとにエクセルのファイルで提供しています。すべて市川市内の情報なので、子どもたちのタブレットにダウンロードして調べたい生き物を種名で絞り込んだり、長田谷津や江戸川放水路など場所で絞り込んだりすることができます。たとえば野鳥の「カシラダカ」で絞り込むと、長田谷津では2011年を最後に記録がありません。その原因をテーマに調べ学習を発展させるのもおもしろいと思います。

○ 自然博物館だより

自然博物館が隔月で発行している読み物です。市川市内の自然の話題を取り上げているほか、分類学や生態学の立場で自然や生き物を解説した記事もあります。最新号および創刊号までのバックナンバーをPDF形式のファイルで提供しています(ダウンロードできます。古い号は準備中です)。自然博物館が発行したものですから、書かれている内容についてお問い合わせいただくことも可能です。記事について子どもたちとメールでやりとりできれば楽しそうです。



第35巻 第1号 (通巻第199号) 令和4年4月1日 発行

編集·発行/市立市川自然博物館 (市川市教育委員会生涯学習部) 〒272-0801千葉県市川市大町284番地 **20**47(339)0477